

研究課題

児童の健全育成と危機管理の 推進における校長の在り方



I 趣 旨

社会が変化する中で人々の価値観が多様化し、子どもたちの健全育成に関わる様々な歪みが顕在化している。

学校では、いじめや不登校などの問題が依然として憂慮すべき状況にあり、加えて、携帯電話やインターネットに関わるトラブルなどの問題も発生している。

したがって、児童一人一人の健全な発達・成長をねらいに、子どもが社会的資質の伸長と社会的能力の獲得によって自己実現を図ることができるよう、一層効果的な指導を工夫し、実践を重ねていく必要がある。

校長は「健全育成」を経営の重点や方針に位置付け、学習指導をはじめとして各教育活動の改善・充実を推進することや生徒指導の機能を高めること、教職員一体で子どもを見取り、育てる組織体制を確立することや教師の指導力を高めること、家庭や地域・関係機関との連携ができる体制づくりなどに取り組む必要がある。

本提言では、子どもの健全育成に関わる留萌管内各小学校長の意識や取組の状況から、健全育成の推進において校長が発揮すべきリーダーシップの在り方を検討していく。

II 研究発表及び協議

(1) 研究発表

「児童の健全育成を図る学校経営において
発揮すべき校長のリーダーシップ」
留萌地区 留萌市立潮静小学校 東 公康

(2) 研究の概要

留萌管内における各小学校長へのアンケート調査を実施し、健やかな子どもを育成する学校づくり、健全育成阻害要因発生への予防・対応、健全育成に関わる危機管理に強い組織づくりの視点から、取組を推進した。

① 健やかな子どもを育成する学校づくり

- 子ども一人一人の「自己効力感」を高める取組
 - ・理念を示す→「小さな自信づくり」から「自己効

力感の高揚」を経営の柱に据える

- ・目指す子どもの姿を盛り込んだ重点目標の提示
- 子どもの「自己肯定感」を育む学校づくり
 - ・校長発「輝き・笑顔・元気プロジェクト」の提案
→子どもたちの「夢」を応援する取組
 - ・プロジェクトの具体化
- 確かな学びをつくる授業で子どもの力を高める取組
 - ・授業の質的な向上を目指す方針の提示
 - ・方針具体化への視点提示と取組の実際（働きかけ）
 - ア 学力の実態を把握・確認する取組の実施
 - イ 授業に向かう姿勢と態勢を確立するための取組
 - ウ 確かな力が身に付く育成プランの策定と実施
 - エ 各学年の重点事項と6年間の学びの積み上げが見える一覧表の作成と活用
 - オ 質の高い授業づくりができる教師の育成

② 健全育成阻害要因発生への予防・対応

- 「相談活動の充実」を中心とした取組
 - ・校長の方針提示→いじめや不登校を生まない学校づくりの明示
 - ・方針を具体化する取組の提案→児童の心の居場所づくりに向けた取組としての教職員全員による「教育相談」の実施
 - ・「教育相談」の実施に対する指導助言 →指導よりも「傾聴」の姿勢で！→情報の共有と指導に生かせる資料化を！
- 「未然防止」を柱に据えた学校づくりの取組
 - ・安心・安全な学校づくりの方針を提示
 - ・方針を具体化する二つの方策
 - ア 基本方策としての「未然防止」—2つの視点で→居心地のよい居場所づくり
 - ・学級づくり：一人一人の出番とみんなの協力
 - ・生徒指導の機能を生かした学習指導や諸活動
 - イ 「予防」と「備え」の方策
→早期発見から常時発見へ：意識と行動の転換

- ・児童把握の活動 ・情報ソースの活用
- 研修と組織の確立：認識力と対応力の向上
- ・教師の対応力向上 ・体制と態勢の整備

- 学級集団の質の向上で児童の満足感を高める取組
- ・学級集団がもつ2側面を重視し、よりよい学級集団づくりを経営の重点に位置付けて提示
- ・「Q-U」活用による児童理解の深化と学級集団の把握及び結果分析を基にした学級集団づくりの改善
- ア 調査の導入、実施について生徒指導担当と協議
- イ 実施計画作成と実施についての説明、及び効果的活用に関する研修会の実施について指導助言
- ウ 各計画への位置付けや児童理解推進への指導
- エ 生徒指導部を核にした教師間連携と協働の強化
- オ 個々の学級経営から組織全体で考え、取り組み、高める学級経営への意識転換と行動の具体化

- 教師の力量向上によって生徒指導の充実を図る取組

- ・校長が求める生徒指導の力量を教職員に提示
- ・研修の具体化と実施内容などの工夫

③ 健全育成に関わる危機管理に強い組織づくり

- 学校、家庭、地域、行政が一体となった取組
- ・「スクエア・プロジェクト」と「ジョイントプロジェクト」の積極的な実施・推進における校長のリーダーシップ発揮
- ・具体事例―連携を基盤とした「通学合宿」の取組
- 家庭や地域、関係機関と連携した健全育成の取組
- ・健全育成の推進に向けて描く校長の連携構想
- ・リーダーシップ発揮による健全育成の具体化

(5) 成果と課題

① 成果

- ・教職員が課題意識を共有し、組織一体で健全育成に取り組むことができた。
- ・生徒指導の機能を生かした共感的な姿勢・態度で子どもを育てる学校づくりができた。
- ・地域一体となった「共育・協育」を推進することができた。

② 課題

- ・マネジメントサイクルを機能させて健全育成の質を高める必要がある。
- ・ミドルリーダーの育成や、組織力向上を図る研修の実施において、積極的に指導性を発揮する必要がある。
- ・教職員全員によるチームで「教員文化」を創造す

るためのリーダーシップを発揮する必要がある。

2 研究協議

- 生徒指導の機能を生かした取組の推進
- ・全校縦割り班活動の工夫改善によって、児童一人一人が自分を大切にしている活動を実施している。
- ・教員が児童個人及び集団の中の個人を大切にしている取組を推進している。
- 「+1」の取組実践
- ・児童がよさや伸びを実感できる取組が参考になった。
- ・「+1」の取組については、教育活動のどの段階で、どんな取組が効果的か探っていく必要がある。
- いじめ・不登校の未然防止
- ・いじめはないのではなく、見付けていないという認識で指導に当たる必要がある。
- ・不登校については、保護者の考え方や地域性等を踏まえて対応していく必要がある。

3 グループ協議（8グループ）

- ・小規模校においては、担任外の教員の目が届くことから、縦割り班の活用が有効である。生徒指導の力量を高めるためにも、他校との連携・交流が大切である。
- ・小規模校では、その利点を生かし、いじめ等の課題の解決に向けて、即行動に移すことができている。また、地域やPTA、幼保中との連携・協力が欠かせない。
- ・いじめや不登校を出さない学校づくりを進めるためには、校長からの児童への情報発信が必要であり、課題解決のためには、組織的な取組が求められる。
- ・行事において、友達を思いやる観点を評価に位置付け、反省させることが有効である。校長が経営ビジョンをしっかりと持ち、保護者への指導や関係機関との連携に努めることが重要になる。
- ・校長が、学校改善に向け、キーワードを発信して、取組を進めることが大切になる。学校、地域及び家庭が1つのキーワードのもとで、取組を継続し、評価・改善をすることにより、健全育成の取組は充実する。
- ・いじめ・不登校の未然防止に向け、既存の学校組織を機能させ、児童の情報共有化を図るとともに、共通した指導を行う必要がある。
- ・校長は、経営ビジョンを明確に示し、実践に向けて専門委員会等を組織し、それを機能させていくことが大切である。リーダーの姿が、新しい校風づくりやよき伝統づくりにつながっていく。
- ・大規模校においては、学校改善のキーワードは「環境」である。生徒指導部長を窓口として、課題の解決へ導いたり、担任外の教員の力を活用したりするなど、

個々の教職員の力量や組織の力が生きるよう、職場環境を整える必要がある。

Ⅲ ま と め

本分科会は、研究課題「児童の健全育成と危機管理の推進における校長の在り方」、及びリーダーシップの視点

(1)「いじめや不登校等を生まない学校づくりの推進」、視点(2)「危機管理に強い組織育成のための意図的・計画的な取組の推進」がテーマとして挙げられているが、討議の柱を『いじめや不登校等を生まない学校にするために、危機管理に強い組織をどのように作るか』として「健やかな子どもを育成する学校づくり」「健全育成を阻害する要因発生の予防」「健全育成に関わる危機管理に強い組織づくり」の三つの観点から、課題解決に向けたグループ協議を行った。

国及び道からの施策が次々と打ち出され、様々な課題が山積している学校現場であるが、留萌地区、潮静小学校・東公康校長先生の大変示唆に富む貴重な研究提言をもとに、熱のこもった研究協議が行われ、分科会の趣旨に沿って課題解決に迫る有意義な研究の場となった。

特に、東校長先生の研究発表では、児童の健全育成について、校長が発揮すべきリーダーシップの視点から、全小学校を対象にアンケート調査を実施して、留萌管内における現状や課題を明らかにしていただいた。

そして、課題解決に迫るために校長が果たすべき役割や指導性について実践例を通して示していただいた。

児童の健全育成及び危機管理推進におけるポイントとして、次の3点を確認した。

① 1点目は、「ビジョンの構築」である。

いじめや不登校等を生まない学校づくりのために、校長は「どんな視点で、どのように考え、どのような共通実践をするのか」と言った明確なビジョンの提示や校長自身による日常の観察や情報の共有などにより、自校の子どもの姿を的確に把握するとともに、教職員が生徒指導の機能を生かし、問題の解決に協働して取り組む姿勢を示すことが重要であることが確認できた。

② 2点目は、「組織づくり」である。

校長は、常日頃から児童理解の重要性を指導し、問題の未然防止や早期発見に努めるよう指導するとともに、危機管理意識を強くもち、問題等に対して的確に判断し、適切かつ迅速に対応できる組織づくりと対応システムの確立、そして校内のみならず、家庭や地域、関係機関とも密接に連携・協力できる体制の構築、コミュニケーションづくりを進めていかなければならないこと

が確認できた。

③ 3点目は、「人材育成」である。

危機管理に強い学校づくりのために、学校は、未然防止や早期発見、再発防止の視点から、起こりうる危機を想定した開発的・予防的な取組を進めるとともに、教職員の力量形成や組織力向上を図る研修活動、ミドルリーダーの育成について、校長の積極的なリーダーシップの発揮と自身が健全育成や危機管理の在り方についての知見を広げることが重要であることが確認できた。

今後の課題として、以下のことがあげられた。

- ・子どもの姿を視点に、マネジメントサイクルを機能させて、健全育成や危機管理の質を高める必要があること。
- ・校長は、ヒドウン・カリキュラムの重要性を認識して、学校運営や研修活動を意図的・計画的に進めていくなどの工夫が必要であること。
- ・全教職員の共通理解を図り、チームとしての指導体制を確立するとともに、家庭・地域・関係機関等との連携・協力を図り、健全育成や危機管理により多くの人が関わる体制の整備が必要であること。

「第9分科会 健全育成 に参加して」

留萌市立幌糠小学校 前田 郁美

本分科会は、今年度から新たに設置された分科会であり、子どもたちの健全育成を期し、健全育成上の課題に対し組織的対応を進めていくための具体的方策を明らかにすることを目的とする。

留萌管内校長会・東校長が「児童の健全育成を図る学校経営において発揮すべき校長のリーダーシップ」と題し、以下三つのアプローチからテーマへ迫る留萌管内の提言発表を行った。

1. 健やかな子どもを育成する学校（基盤）づくり
2. 健全育成を阻害する要因発生への予防
3. 健全育成に関わる危機管理に強い組織づくり

グループ討議では、一つの討議の柱と提言であげられた四つの課題にも踏み込んで、熱心な討議がなされた。各グループによる討議内容報告から次の3点にわたる分科会のまとめがされ、次年度へ向けた研究の方向性が明らかになった。

1. 今ある組織を機能させる校長のリーダーシップ
2. 連携をキーワードとした経営ビジョンの構築
3. ヒドウン・カリキュラムの重要性を意識した意図的・計画的な学校運営及び研修の推進